

# VARÓN DE DIOS

## (神の人)

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団  
九州教区 壮年部 2025年10月

九州教区壮年部員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。10月になり朝晩は涼しくなりましたが、日中はまだ気温の高い日が続いています。

例年、熊本県で行われていた阿蘇聖会が、今年は博多ニューライフ教会を会場として10月12日～13日、北見神愛キリスト教会の日吉成人先生を講師にお迎えして開催されます。普段なかなかお会いすることのできない壮年部の方々との交わりにも期待しています。

さて今回の「神の人」は、今年の3月をもって、長年に渡る牧会の働きを引退された川尻キリスト教会の高口喜美男先生の証しです。

### 「伝道者としての私の生涯」

川尻キリスト教会 高口喜美男



私は、戦後間もない小学4年生の時、クリスチャンであった担任の先生から、初めて聖書のことばを聴きました。こども心にも、感じるところがあり、その先生の御自宅を訪ね、お話を聴きました。のちに、教会を訪ね、救いの恵みにあずかり、

さらに、伝道者、牧師としての人生に導かれましたが、その恵みの原点は「あの時」「あのこと」にあったのでした。「神のみ言葉」と「それを語る人」です。相手が子供だろうが、どんな人だましようが、心から語ったことば、ましてや「神のみことば」には、ちからといのちがあるのです。

そして、教会生活を続けていく中で、教区聖会、全国聖会等で「伝道者の道」への召命も受けました。しかし、私は長兄を事故で失い、母子家庭の、実質上の「長男」になっていましたので、心に受けた「召命」とはいえ、軽々に従うことはできず、「召命の確かさ」を求め続け、祈り続けました。

そうした中で、遂に、心を定めて、終戦後のきびしい時代、こどもたちを養い育ててくれた「母を泣かせて」、それなりの企業の職を辞し、神学校へと向かいました。そして、神学校在学中から、既成教会の後任牧師や副牧師として迎えられる、遣わされるのではなく、「これだけの親不孝をしたのだから…」と、捨て身の覚悟で「まったくの開拓伝道」を志しました。全体的に、「そういう時代」でもありましたが、それ以外の道は、まったく考えてはいませんでした。

それで、キリスト教年鑑などの資料を丹念に調べたりして、神学校から通える土地として、東武電鉄沿線の越谷市に目が留まり、生まれて初めて、常磐線に乗り、北千住で乗り換えて、越谷に。その駅に着いて、初めて「こしがや」と読むんだと知ったという「お粗末さ」でした。

そして駅舎を出て、街を巡り、「そろばん塾」のようなところを見つけては、「東京の神学校の学生ですが、毎週、日曜日の朝に、子供たちに聖書のお話をしたいのですが、ついては…」と、タダで使わせていただけませんか」というお願い。一日中、頑張り

ましたが、ほとんど、あきれたような顔で断られ続けました。最後と思って訪ねたのが、お酒屋さんが、お店の裏で経営している「そろばん塾」が、日曜日の朝だけ空いている」ということで、受け入れてくださったのでした。これが「きっかけ」となって、「北越谷」での伝道を始め、それを土台にして、のちに「北越谷キリスト教会」が生まれたのでした。

今日のような「ネット時代」ではありませんでしたし、「予算に見合うような物件」にも出会えませんでした。「至難のわざ」でした。けれども、土地の農家の借家から、まったくの開拓伝道と「教会形成」に取り組みました。この戦いと喜びを、埼玉県下、北越谷で、身をもって味わいました。

その後、かねてより結婚の約束をしていた民子との結婚が契機になって、アーサー・グレエル宣教師の「熊本の川尻で伝道したい。」との思いを教団理事会が受け入れて、「主のお導き」としか言いようのない出来事の中で、「北越谷キリスト教会」を後任にゆだねて、教団辞令によって、一転、九州、熊本市の南郊外、川尻での開拓伝道に導かれたのでした。



当時は、川尻バイパスはおろか、城南中学の先は道路もない、いわば「はずれ」の時代でした。その小さな借家の6畳間を住まいとして、生

まれたばかりの雅子と親子3人の家族礼拝を続けました。やがて、その礼拝に、ひとり、ひとりと加えられていき、実質上、

「教会」となり、グレエル宣教師の働きを通して、会堂の基本建築工事が、その後、「教会」の充実とともに、牧師館、駐車場、納骨堂と施設も充実しつつ、現在を迎えております。

二度にわたって、小さな借家からの、まったくの開拓伝道にとり組んでまいりましたが、わたしにとっては、「伝道できること」が喜びでした。それなりの戦いの中にも、その折々に、それに勝る主の祝福をいただいていたのでした。そして、主がお導き下さった「川尻」において、「主にあって」多くの方々とお出合わせいただき、「神の家族」、「川尻キリスト教会」として、こんにちに至っております。そして、主がお備え下さった後任者にバトンタッチできたことを、心からの感謝をもって嬉しく思っています。

私は、現在、85歳。引退直後の牧師です。しかし、最後まで「いのちのことば」に生かさせていただき、その恵みを証しし続けさせていただきたいと、願っています。

私が高口先生と初めてお会いしたのは、神学生として1年間蒲江教会にいた時です。その時の主管者が高口先生でした。いつも穏やかな笑顔の先生ですが、教会総会のまとめを作成する際には、細部に渡って厳しくご指導頂き、牧師になった今、その事がとても役立っています。(松尾)

広報誌の名前は「VARON DE DIOS」(バロン デ ディオス)です。これはスペイン語で「**神の人**」という意味です。

九州教区 壮年部担当 松尾 敬文

〒813-0041 福岡市東区水谷 1-14-3

福岡キリスト教会 092-681-5501